

2015年3月期 第2四半期決算概要

NS 日進工具株式会社

～超硬小径エンドミルのトップランナー～



2014年10月31日
(証券コード6157)

目次

1. 2015年3月期2Qの業績 ～売上・利益ともに 2Q累計での過去最高を更新～

P. 3	...	エグゼクティブサマリー
P. 4	...	営業利益の増減要因
P. 5	...	損益計算書サマリー
P. 6	...	貸借対照表サマリー

2. 四半期業績推移 ～売上高は4四半期連続で増加～

P. 8	...	売上高の推移
P.11	...	売上総利益の推移
P.12	...	販管費の推移
P.13	...	経常利益の推移

3. 2015年3月期の業績見通し ～通期見通しを上方修正～

P.15	...	業績予想見通し
P.16	...	売上高・経常利益推移
P.17	...	2Q時点における進捗状況について
P.18	...	2015年3月期の重点戦略とその実施状況
P.20	...	設備投資と減価償却費のトレンド

4. 株主還元について その他参考資料

P.22	...	株主還元について(増配と株式分割)
P.23	...	微細・精密工具におけるニッチトップ戦略
P.26	...	過去5年間の業績と主要データの推移
P.27	...	創業時からの売上高・経常利益推移
P.28	...	株価推移とバリュエーション
P.29	...	IR情報サイトのご案内



1. 2015年3月期2Qの業績 ～売上・利益ともに2Q累計での過去最高を更新～

エグゼクティブサマリー

経常利益は前年同期比50.3%の増益 2Q累計における過去最高を更新

(百万円)

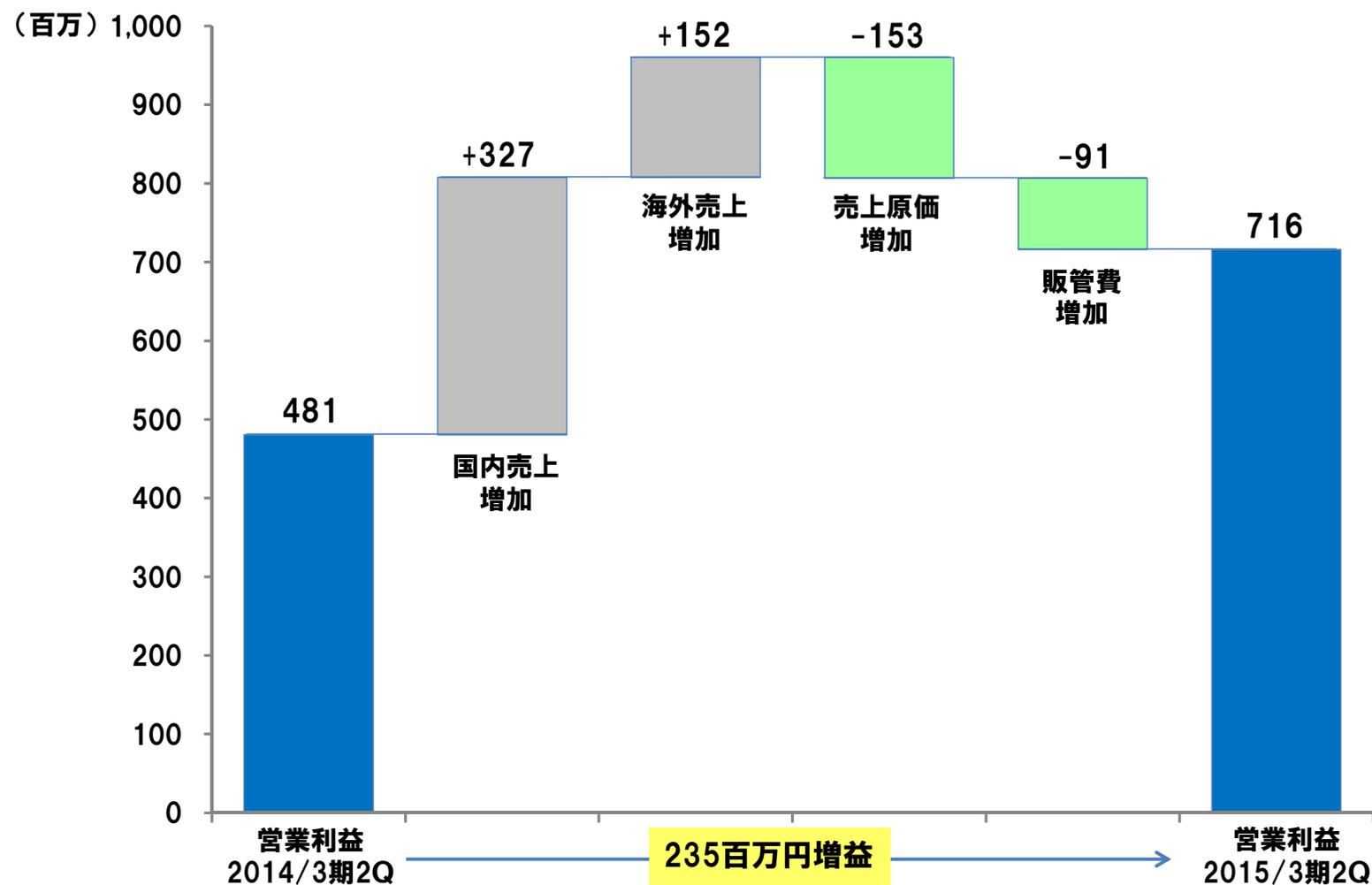
	2014/3期 2Q累計	2015/3期 期初予算	2Q累計 実績	予算 達成率
	売上高	3,069 (-1.1%)	3,320 (+8.2%)	
営業 利益	480 (-12.7%)	540 (+12.4%)	716 (+49.0%)	+32.6%
経常 利益	500 (-12.0%)	560 (+11.9%)	752 (+50.3%)	+34.3%
四半期 純利益	323 (-2.5%)	335 (+3.6%)	483 (+49.4%)	+44.2%

※()内は前年同期比増減率

- 消費増税に伴う駆け込み需要の反動減や天候不順による影響が一部でみられたものの、設備投資の持ち直し等から緩やかな景気回復の流れが継続。
- スマートフォンの新製品向け需要に牽引され、電子部品等関連分野が堅調に推移。自動車関連では生産抑制の動きもあったが、徐々に回復。
- 売上高、経常利益ともにリーマンショック前の水準を超え、2Q累計としての過去最高を更新。

営業利益の増減要因

売上増による増産効果等から営業利益は49.0%アップ
営業利益率も15.7% ⇒ 20.2%へ向上



損益計算書サマリー

(百万円)

	2014/3期 2Q累計	2015/3期 2Q累計	前年同期比
売上高	3,069	3,548	+15.6%
売上総利益(率)	1,461 (47.6%)	1,787 (50.4%)	+22.3%
販管費(率)	980 (32.0%)	1,071 (30.2%)	+9.3%
営業利益(率)	480 (15.7%)	716 (20.2%)	+49.0%
経常利益(率)	500 (16.3%)	752 (21.2%)	+50.3%
当期純利益(率)	323 (10.5%)	483 (13.6%)	+49.4%
設備投資額	290	303	+4.7%
減価償却費	273	226	-17.1%
従業員数	285人	283人	-0.7%

※()は売上高に対する比率

- 生産増加に伴う工場稼働率の向上により、売上総利益は前年同期比22.3%増加、売上総利益率も2.8ポイント上昇し50.4%。
- 業績好調により賞与引当金の積み増しを行ったこと等から、販売管理費は前年同期比9.3%増加したが、販管費比率は30.2%と同1.8ポイント低下。
- 大きな設備投資も無く、減価償却費は同17.1%減少。ただし、売上高の拡大に対応するため、今後、工場拡張について検討していく。

貸借対照表サマリー

(百万円)

	2014/3	構成比	2014/9	構成比	前期比
(資産の部)					
I 流動資産	5,625	62.0%	5,926	63.2%	+5.3%
現金及び預金	2,856	31.5%	3,053	32.6%	+6.9%
受取手形及び売掛金	1,094	12.1%	1,218	13.0%	+11.3%
商品及び製品	867	9.6%	849	9.1%	-2.1%
II 固定資産	3,450	38.0%	3,454	36.8%	+0.1%
有形固定資産	3,116	34.3%	3,051	32.5%	-2.1%
無形固定資産	29	0.3%	98	1.0%	+236.1%
投資その他の資産	303	3.3%	304	3.3%	+0.3%
資産合計	9,075	100.0%	9,380	100.0%	+3.4%
(負債の部)					
I 流動負債	1,028	11.3%	1,008	10.8%	-2.0%
買掛金	225	2.5%	235	2.5%	+4.3%
II 固定負債	366	4.0%	396	4.2%	+8.2%
負債合計	1,395	15.4%	1,405	15.0%	+0.7%
(純資産の部)					
純資産合計	7,680	84.6%	7,975	85.0%	+3.8%
負債・純資産合計	9,075	100.0%	9,380	100.0%	+3.4%

- 売上高の伸びに伴い
売上債権が増加する一方、
製品在庫は減少。
- 固定資産では、減価償却の
進捗により機械装置等が
減少した一方、販売管理と
会計向けのシステム構築に
伴うソフトウェア仮勘定により、
無形固定資産が増加。
- 有利子負債額はゼロ。
(無借金経営)
- 自己資本比率85.0%と
強固な財務基盤を維持。

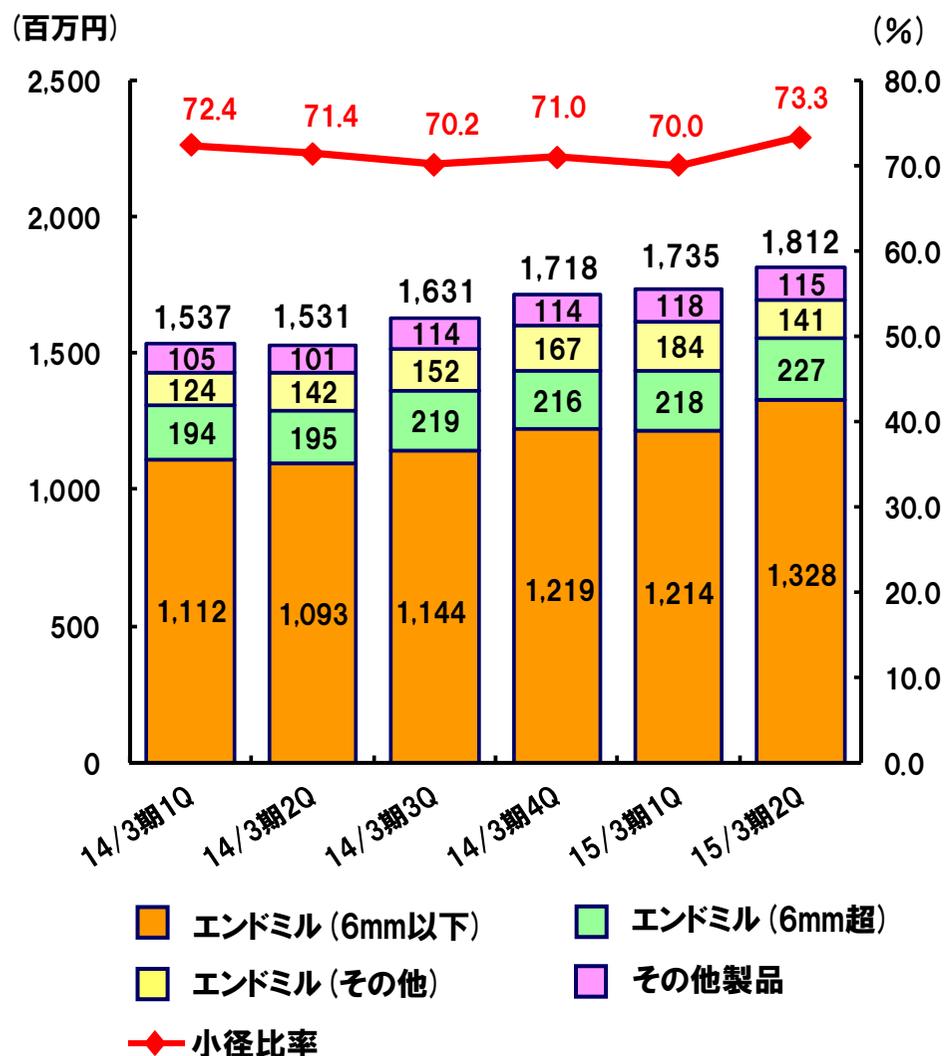


2. 四半期業績推移

～売上高は4四半期連続で増加～

売上高の推移① 製品別

製品別売上高と小径比率の推移

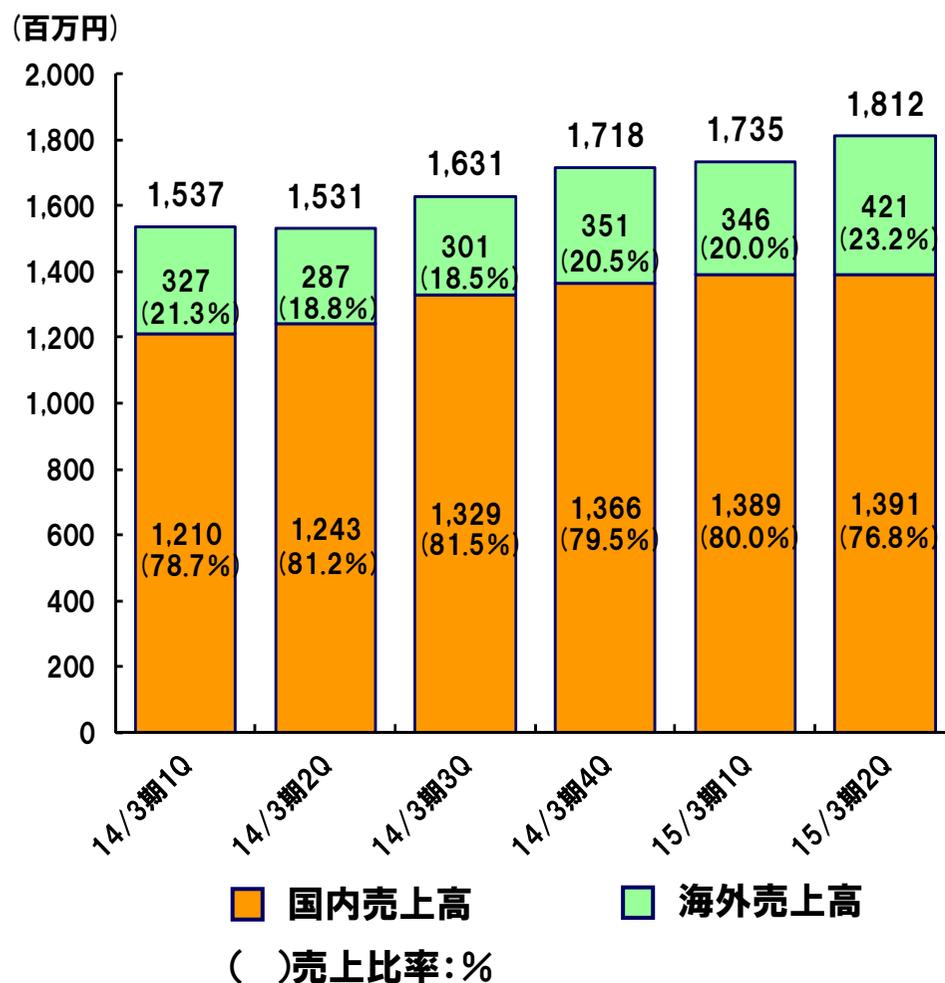


- 第2四半期の連結売上高は前年同期比18.3%増の1,812百万円。
- 自動車関連では、国内販売の伸び悩みから生産はやや厳しかったが、輸出向けやニューモデルの試作関連の仕事については底堅い動きを示した。また、半導体・電子部品関連は、スマートフォンの新製品向けに牽引され好調であった。
- 製品別では、主力の「エンドミル (6mm以下)」が1,328百万円と前年同期比21.6%増加したため、小径比率は同1.9ポイント上昇し73.3%となった。

※ 従来「エンドミル (その他)」に含めていたCBN製品やPCD製品を「エンドミル (6mm以下)」に組み替えて表示しています。

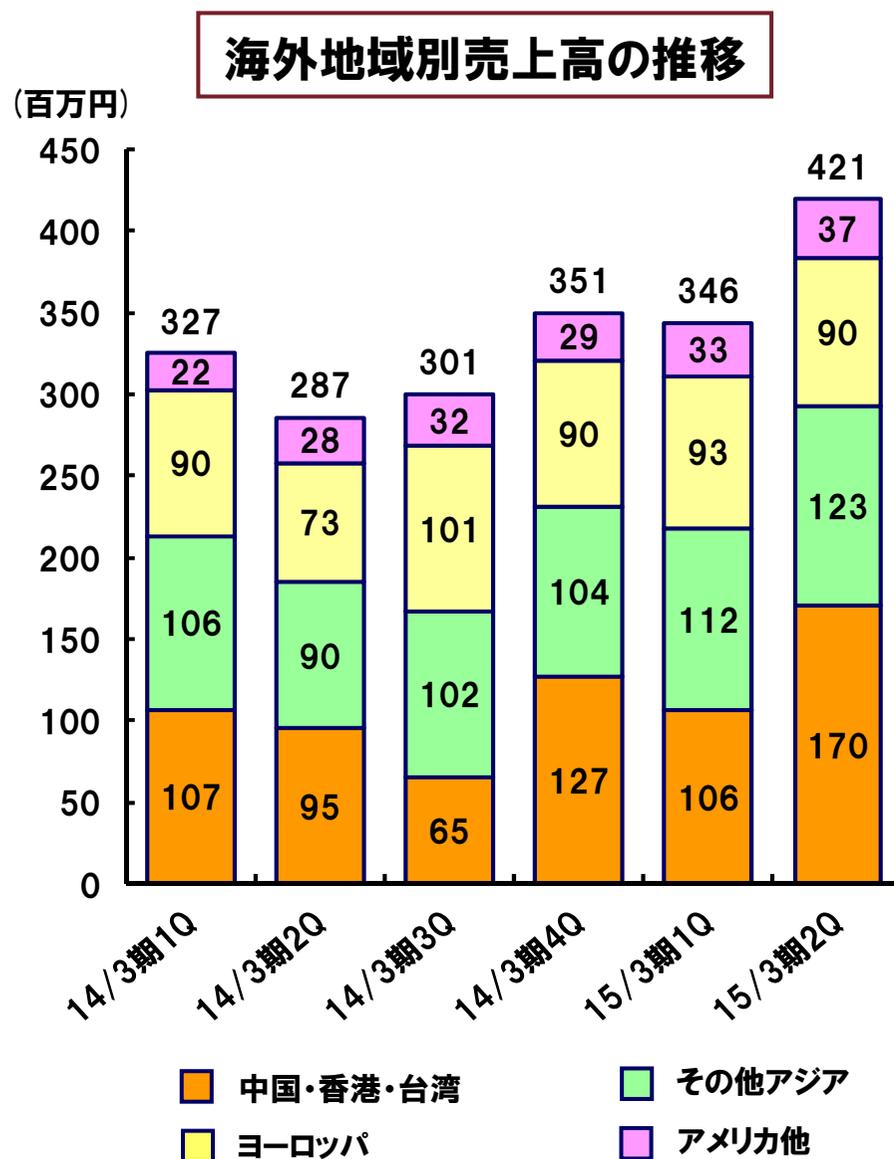
売上高の推移② 国内・海外

国内・海外売上高の推移



- 国内売上高は前年同期比11.9%増の1,391百万円、海外売上高は同46.7%増の421百万円。
- 国内向けでは、消費増税に伴う駆け込み需要の反動減が懸念されたが、夏季休暇のあった8月を除き堅調に推移、四半期での過去最高を更新した。
- 海外向けでは、スマートフォン関連が絶好調の中国向けに牽引され、こちらも過去最高を更新。

売上高の推移③ 海外地域別

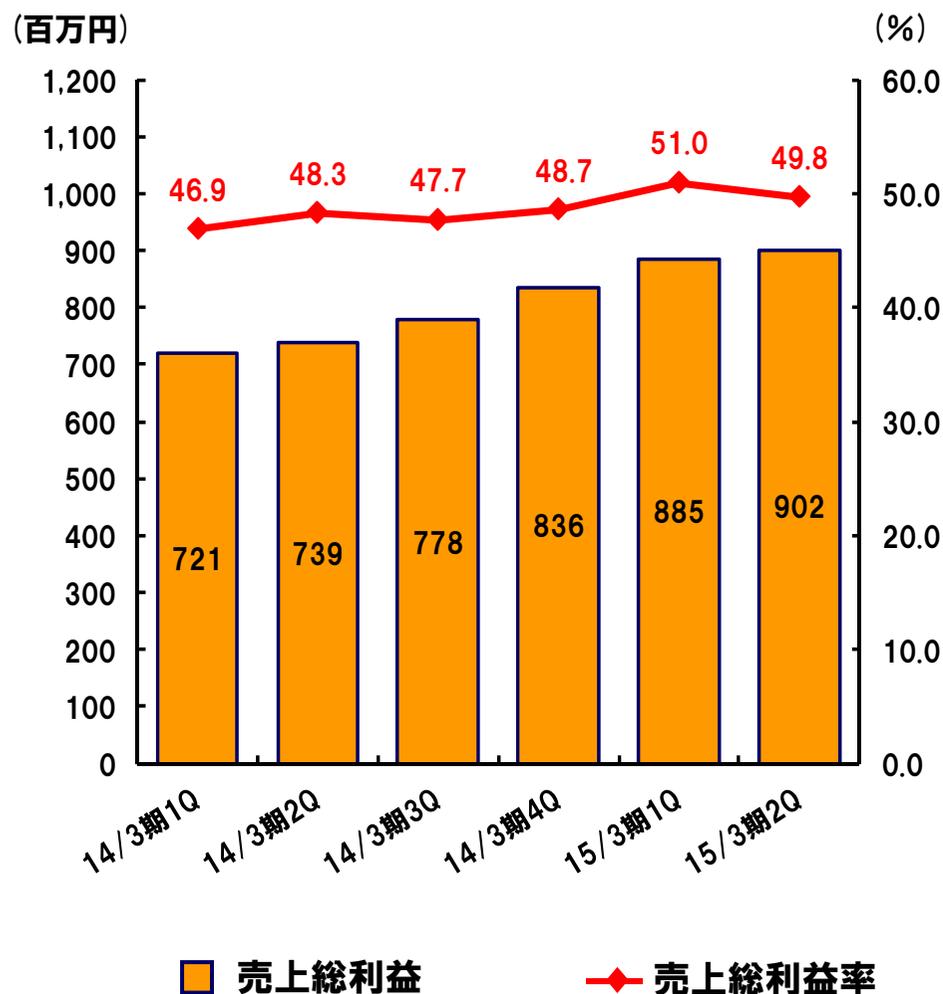


- ヨーロッパは自動車関連や医療関連向けを中心に安定的に推移。
- ASEANをメインとするその他アジアは、タイにおける政情不安が落ち着き、徐々に回復の動きが見えてきた。
- 中国・香港・台湾は、スマートフォンの新製品向けの需要に支えられ大きく増加。中国の国内スマートフォンメーカーも品質向上を図っており、当社製品の需要先も拡大傾向。

※NS香港は12月決算のため、連結に当たり3ヶ月のズレが生じています。

売上総利益の推移

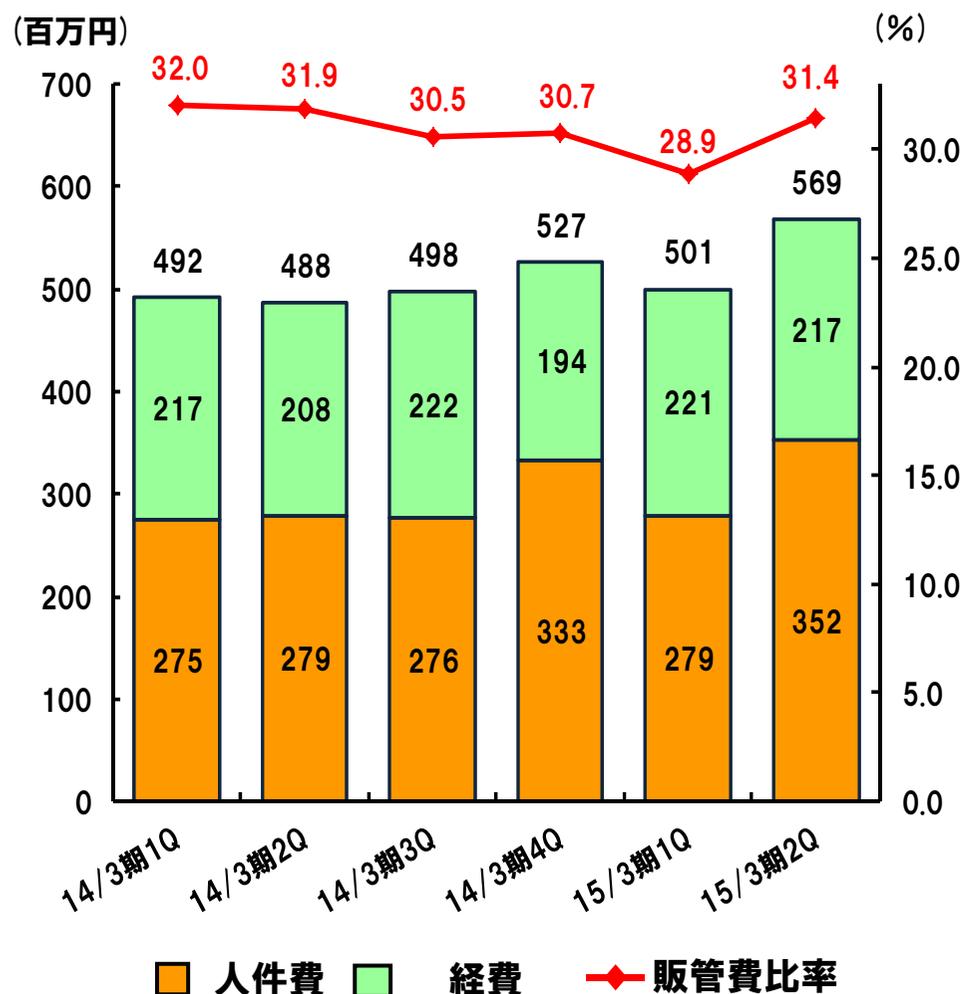
売上総利益と売上総利益率の推移



- 売上総利益は前年同期比22.0%増の902百万円、売上総利益率は同1.5ポイント上昇して49.8%。
- 生産数量の増加により、原材料費が前年同期比17.8%の上昇となったほか、電力費も値上げにより大きく増加したが、連結子会社での内製化促進により外注加工費が抑制されたこと、大きな設備投資が無く減価償却費が低下したこと等から製造費用の増加が抑えられた。
- ただし、業績好調により賞与引当金の積み増しを行ったため労務費が増加したほか、第1四半期では微増となった製品棚卸高が第2四半期では減少に転じた影響等から、売上総利益率は第1四半期に比べ1.2ポイント低下した。

販管費の推移

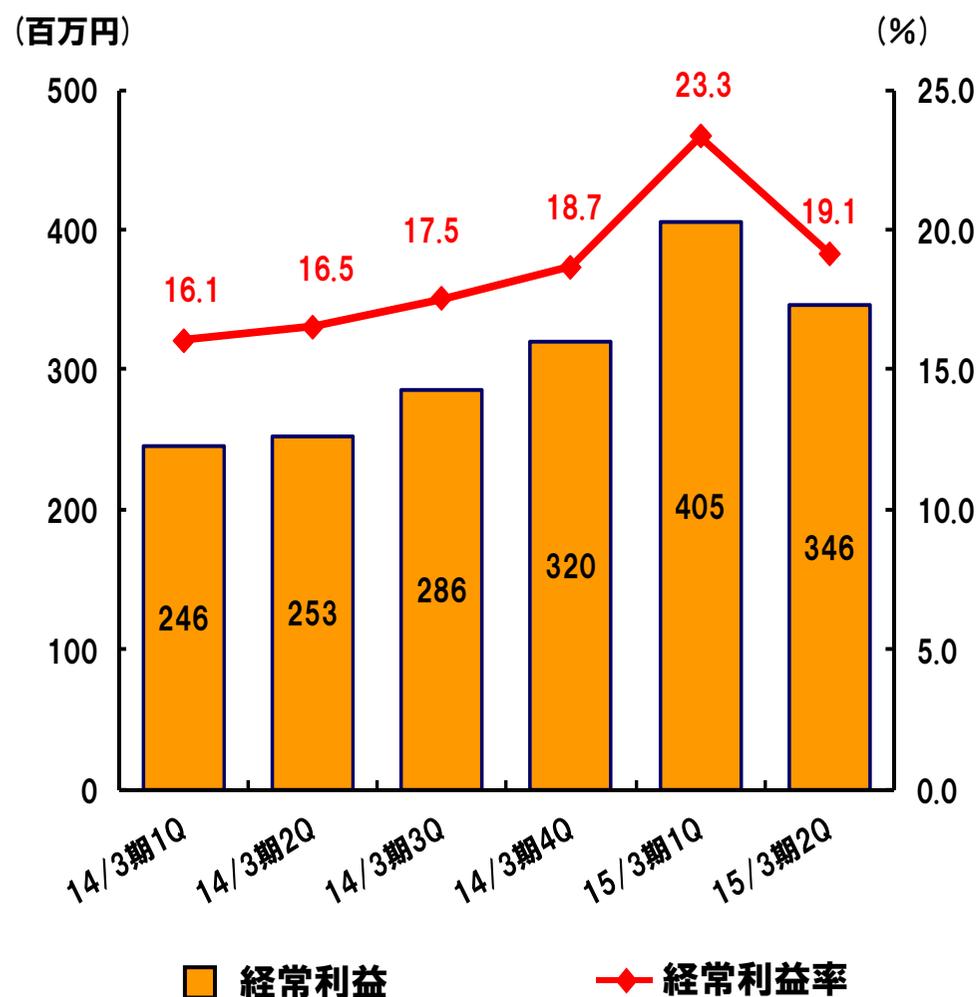
販管費（人件費・経費）と 販管費比率の推移



- 販管費は前年同期比16.8%増加の569百万円。
- 新販売管理システム向けのPC入替えにより事務用品費の増加が目立ったほか、国内外での販促活動の推進により、販売促進費や交際費等が増加し、一般経費は同4.2%増加。人件費は業績好調に対応し賞与引当金の積み増しを行ったことから、同26.2%の増加となった。
- 販管費比率は31.4%と、前年同期と比べ0.5ポイント低下したが、上記の要因から第1四半期比では2.5ポイント上昇した。

経常利益の推移

経常利益と経常利益率の推移



- 経常利益は前年同期比36.9%増の346百万円となったが、賞与引当金の負担増が無かった第1四半期との比較では14.6%の減少。
- 売上高経常利益率は同2.6ポイント上昇し19.1%。
(売上総利益率が1.5ポイント上昇、販管費比率が0.5ポイント低下)



3. 2015年3月期の業績見通し ～通期見通しを上方修正～

業績予想見直し

通期見直しを上方修正 (経常利益は前期比2割アップへ)

2015年3月期の業績予想 (百万円)

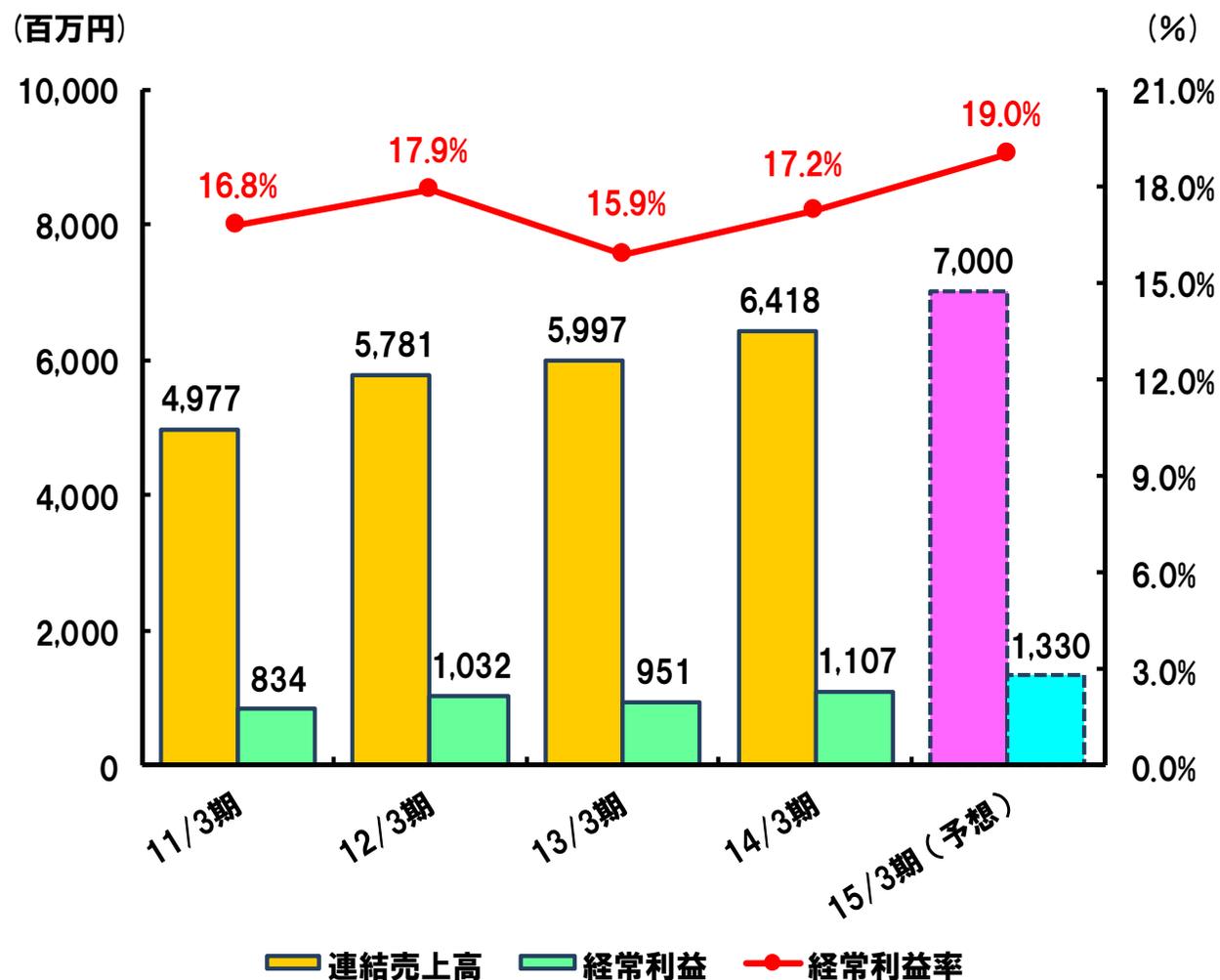
	2014/3期 実績	2015/3期 期初計画	2015/3期 今回計画	前期実績比	期初計画比
売上高	6,418	6,760	7,000	9.1%	+3.6%
営業利益	1,069	1,130	1,280	19.7%	+13.3%
経常利益	1,107	1,160	1,330	20.1%	+14.7%
当期純利益	694	715	820	18.0%	+14.7%
設備投資額	469	704	704	50.1%	0.0%
減価償却費	534	534	534	0.1%	+0.0%
EPS	111.12円	114.37円	131.16円	18.0%	+14.7%
1株当たり配当金 (配当性向)	30円 (27.0%)	25円 (21.9%)	30円 (22.9%)	0.0%	+20.0%

※2014年3月期の1株当たり配当金は、記念配当10円を含んでおります。

※2014年10月1日実施の株式分割の影響を考慮しております。

売上高・経常利益推移

売上高、経常利益ともに過去最高へ
経常利益率も目標の20%にあと一步



2Q時点における進捗状況について

10月以降は展示会等による費用の増加が見込まれ
利益面はやや抑えられる

(百万円)

	当2Q累計 実績	2015/3期 通期見込	2015/3期 下期見込	2Q累計 進捗率
売上高	3,548 (+15.6%)	7,000 (+9.1%)	3,451 (+3.0%)	50.7%
営業利益	716 (+49.0%)	1,280 (+19.7%)	563 (-4.2%)	55.9%
経常利益	752 (+50.3%)	1,330 (+20.1%)	577 (-4.8%)	56.5%
当期純利益	483 (+49.4%)	820 (+18.0%)	336 (-9.2%)	58.9%

※()内は前年同期比増減率

- 上方修正した通期見込に対する2Q累計の進捗率は、売上高では50.7%とほぼ半分だが、経常利益では56.5%と高くなる。
- 3Q以降はJIMTOF等による展示会費の増加に加え、9月に見込んでいた総合カタログ作成費用が10月以降にずれしたこと等により、販管費の上昇を見込む。

2015年3月期の重点戦略とその実施状況 ①

1. 安定した品質を安定して供給する

- お客様に安心して使っていただくための絶対条件
 - たゆまぬ生産技術の向上と在庫の充実
- ⇒ 恒久的目標であり、PDCAサイクルを実践し継続的改善を図っている。
在庫は販売増により若干減少したが、在庫の質の向上を図っている。
(需要に見合った在庫構成)

2. コストダウンの推進

- 自動化、無人化を進め、Made in Japanのものづくりを守る
- ⇒ 自社開発機増設により自動化ラインを増強。
これまでの自動化ノウハウの蓄積を基に、新たな手法にチャレンジ。

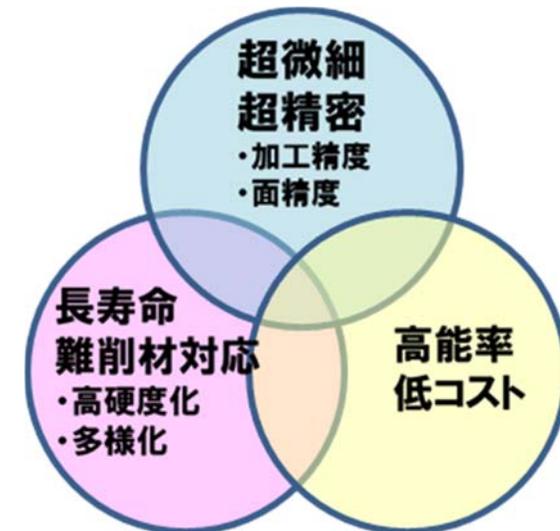
3. 高付加価値製品の拡販

- 当社の強みを伸ばし、差別化を図る
 - 講習会等を通じてCBN・PCD製品を積極的にPRLし、裾野の拡大を図る
- ⇒ CBN・PCDの新製品を発売。全国セミナーキャラバンを展開。

2015年3月期の重点戦略とその実施状況 ②

4. 開発のスピードアップ

- ユーザーニーズに即した製品 + 市場創設型製品
 - CBN製品・PCD製品のラインアップ強化
 - 周辺技術の強化
- ⇒ CBN・PCDの新製品を発売。
鏡面加工等、先端加工に関する技術提案。



マーケットニーズと工具の方向性

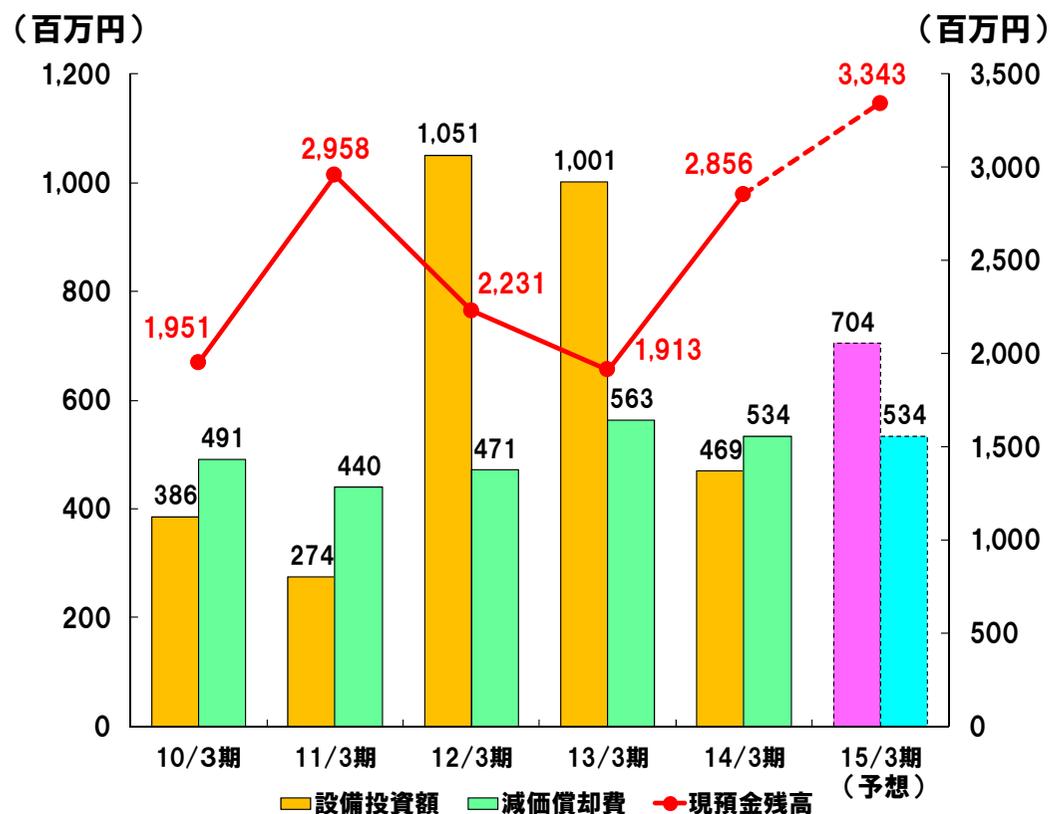
5. 管理業務の見直し

- シンプルな管理手法で無駄を排除
 - 販売管理システム、会計システムのリニューアル
 - 継続的改善により、業務レベルを向上しつつ簡素化を図る
- ⇒ 販売管理システムは2015年1月、会計システムは2015年4月の稼働に向け計画通り構築中。受注、在庫管理、経理等の業務効率化を図る。

設備投資と減価償却費のトレンド

来期以降、売上拡大へ対応するための 工場拡張を検討

設備投資、減価償却費及び現預金残高の推移



(左軸:設備投資額・減価償却費、右軸:現預金残高)

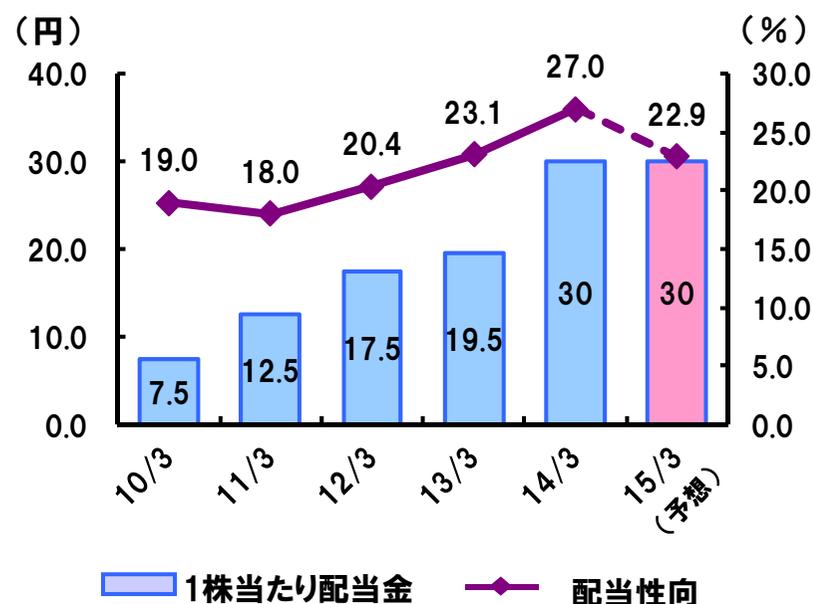
- 12年3月期
将来の仙台工場拡張に備えた隣接地取得により、設備投資額が上昇。
- 13年3月期
牧野工業白河工場の建設により設備投資額が高水準。
- 14年3月期
自動化推進のための設備投資を継続、特殊要因なく設備投資額は減少。
- 15年3月期 (予想)
販売・会計システムの更新費用1.3億円を含めて7億円程度を予定減価償却費は横ばいに。



4. 株主還元について その他参考資料

株主還元について（増配と株式分割）

① 配当と配当性向の推移



業績に応じた利益還元
（配当性向20%を目処）

- 2014年3月期は普通配当20円に創業60周年記念配当10円を上乗せし1株当たり30円。
- 2015年3月期は通期予想の見直しにより普通配当1株当たり30円を予定。（業績予想に対する配当性向は22.9%）

※ 上記の表及び記載は下記②の株式分割の影響を考慮しています。

② 株式分割を実施

- 2014年10月1日に1株 → 2株の株式分割を実施。
- 従来からの経営課題であった「流動性」の改善を図り、投資家の利便性向上へ。

〈ご参考〉微細・精密工具におけるニッチトップ戦略

Made in Japanで勝負



生産力

高品質製品を安定的に供給

自社開発機による自動化の推進
他社が追随できない生産性を誇る



開発力

CBN製品等次世代製品への取り組み
カギは製品の超微細化と長寿命化

超 モノづくり部品大賞等を受賞

小径エンドミルではトップシェア30%に



販売力

微細・精密加工を主とした加工技術提案
海外でも急速に認知度がアップ



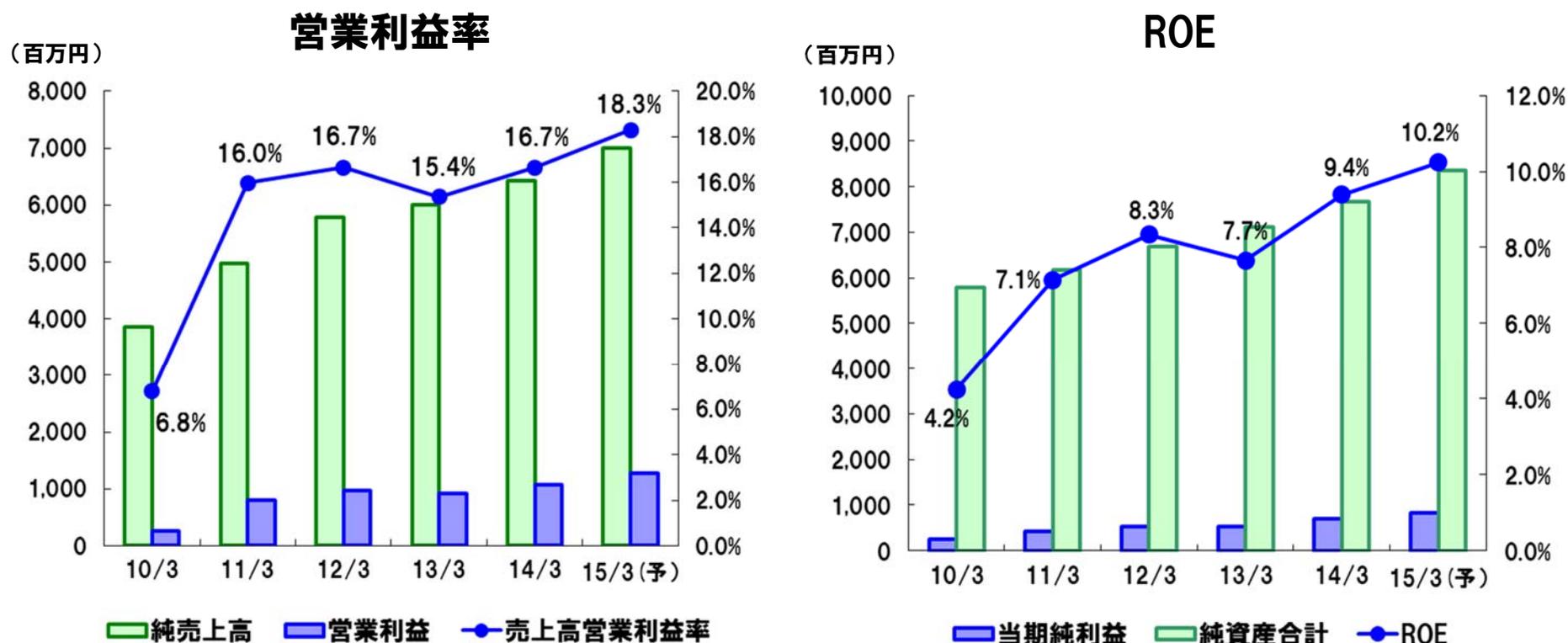
強固な財務基盤と高い収益力

【有利子負債 ゼロ】

【経常利益率 21.2%】

(2015/3期 2Q)

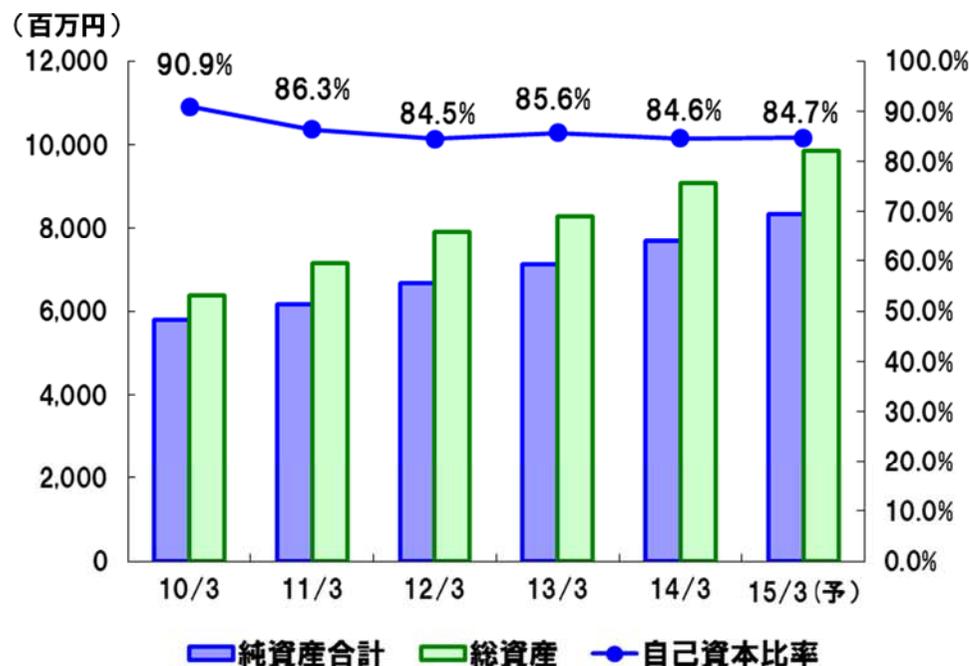
〈ご参考〉収益性（売上高営業利益率とROE）



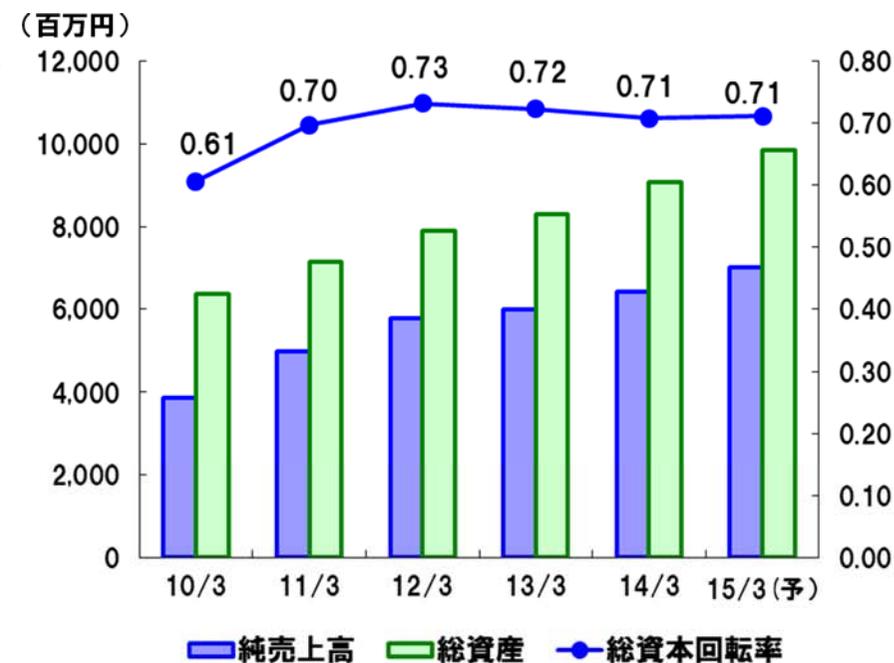
13/3期は子会社の先行投資等から利益が伸びず、営業利益率、ROEとも前期に比べ低下したが、14/3期は子会社への補助金支給や減価償却費の減少、販管費比率の低下等から営業利益率・ROEともに改善。
15/3期は最高益更新でROE10%台乗せを見込む。

〈ご参考〉安全性、効率性（自己資本比率・総資本回転率）

自己資本比率



総資本回転率



子会社の補助金受領による現預金の増加や売掛金の増加等から総資産が増え、自己資本比率は前期を1.0ポイント下回るものの、84.6%と高水準を維持。総資本回転率もリーマンショックの影響で低下した後、徐々に回復。ただし14/3期は総資産の増加により前期比0.01ポイントの減少。15/3期も横ばいが見込まれる。

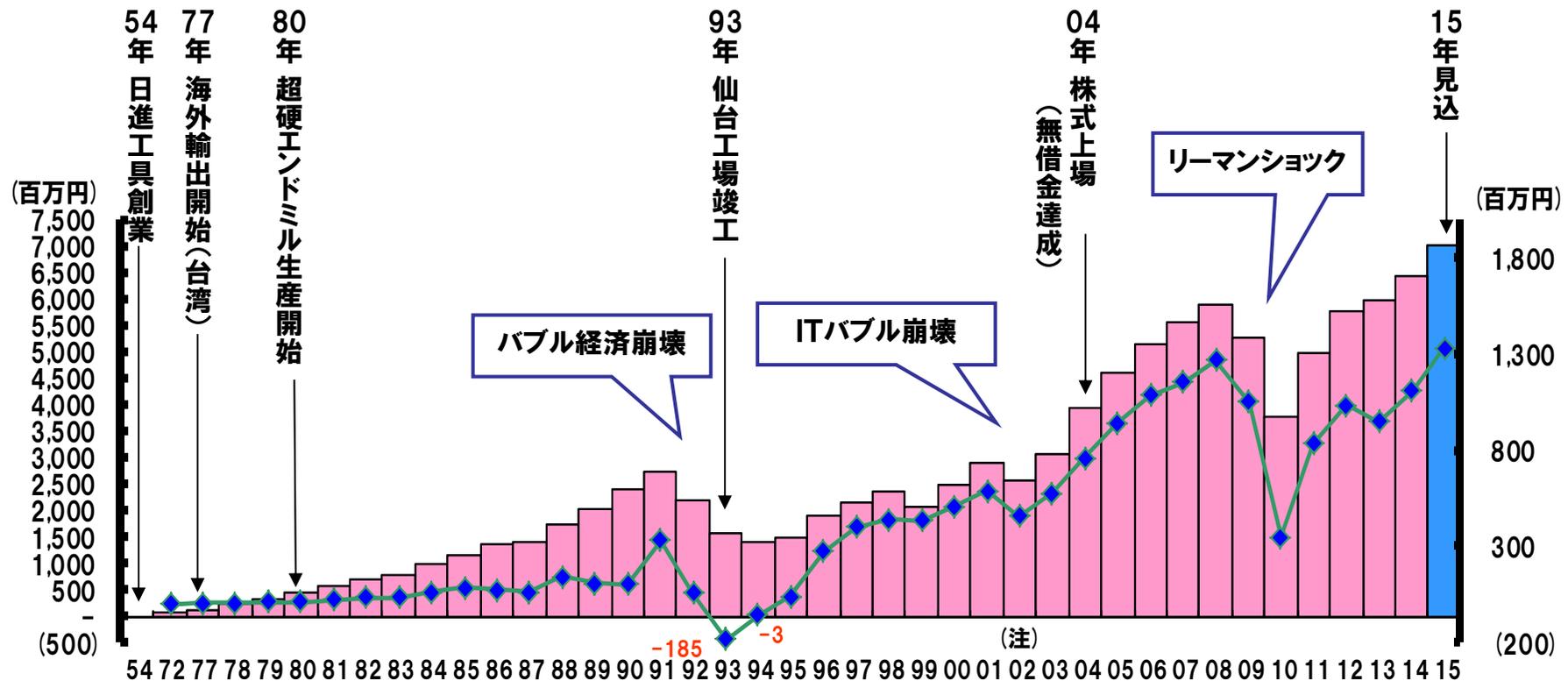
〈ご参考〉過去5年間の業績と主要データの推移

(百万円)

	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期
売上高	3,857	4,977	5,781	5,997	6,418
経常利益	361	834	1,032	951	1,107
当期純利益	242	426	535	527	694
有利子負債額	0	0	0	0	0
純資産額	5,784	6,164	6,678	7,106	7,680
総資産額	6,363	7,143	7,906	8,297	9,075
自己資本比率	90.9%	86.3%	84.5%	85.6%	84.6%
設備投資額	386	274	1,051	1,001	469
減価償却費	491	440	471	563	534
1株当たり 配当金	15円	25円	35円	39円	60円
従業員数	205人	206人	232人	281人	284人

※2014年10月1日実施の株式分割の影響を考慮していません。

〈ご参考〉創業時からの売上高・経常利益推移



(注) 2002年は7ヶ月決算だが、12ヶ月分に換算

売上高(左目盛)

経常利益(右目盛)

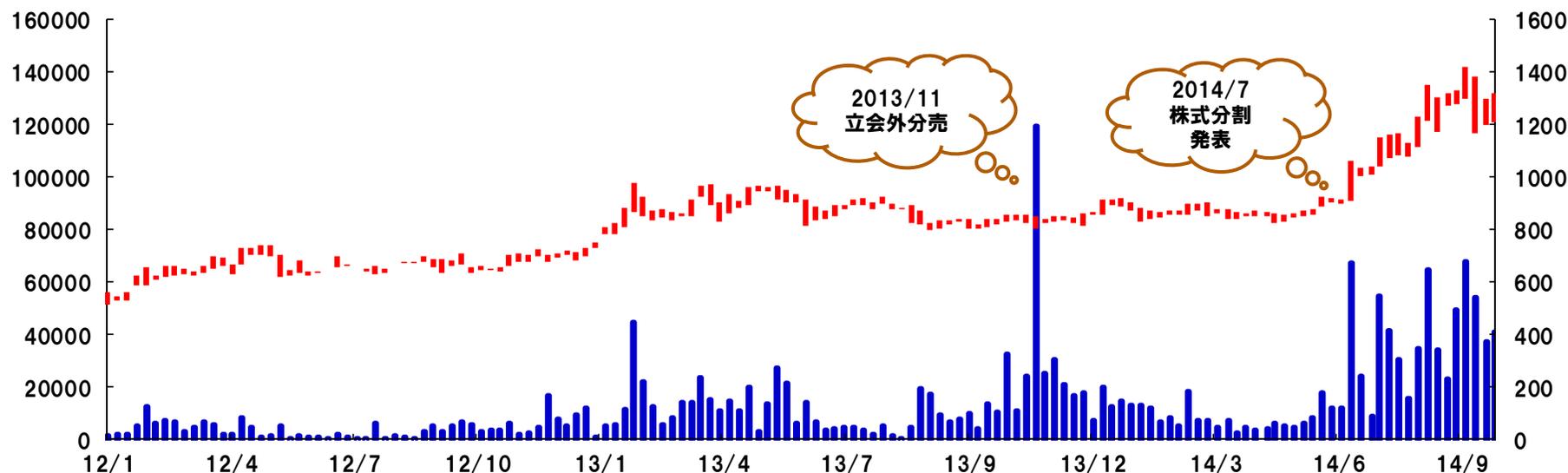
〈ご参考〉 株価推移とバリュエーション

(出来高:株)

■ 出来高
■ 株価

週足ベース株価推移 (2012年1月～2014年10月)

(株価:円)



※ 株式分割を反映した株価で示しています。

バリュエーション (2014年10月30日現在)

時価総額	: 81.5億円	PER (15/3期予想)	: 9.95倍
ROE (14/3期実績)	: 9.4%	PBR (14/3期実績)	: 1.06倍

分割発表後出来高も出来つつある状況

〈ご参考〉IR情報サイトのご案内



メニュー表示

「トップメッセージ」、「よくあるご質問」、「IRお問い合わせ先」
⇒メニュー名クリックで各ページに移動します。

それ以外はメニューにカーソルを合わせると各メニューの
詳細ページ項目が表示されます。

(項目クリックで該当ページに移動できます。)

投資家の皆様へ

投資家の皆様に特にご覧頂きたいページをピックアップしています。

IRニュース

適時開示情報や説明会のお知らせ、レポート更新など最新の
IR情報を掲載しています。

「IRニュース一覧へ」をクリックすると、表示されていない過去の
IRニュースをご覧いただけます。

メニュー項目

ワンクリックで各メニューの詳細ページに移動できます。

URL: <http://www.ns-tool.com/ir/>
当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください。

お問い合わせ

日進工具株式会社

執行役員管理部長 田島 寛
管理部IR担当 今関 弘毅 ・ 松尾 友紀子

TEL : 03-3763-5672
FAX : 03-3764-8225
E-mail : ir@ns-tool.com

将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。